

地域づくりネットワーク埼玉県協議会会員情報

団体名	行田市中心商店街事業協同組合（行田市）	
DATE	代表者	坂田 幸彦
	事務局及び情報誌等	行田市中心商店街事業協同組合理事長 正田 勝紀
	構成員	25人
	活動日	定期性なし
	活動場所	行田市全域・特に商店街の中
	情報誌	特にないが、連絡を目的とした通信文を月1回程度配布
設立のきっかけ	<p>県の商工部、経営指導課等の指導メニューから指導を受ける中で、法人格を有して、国、県などの施策を行田流にアレンジして様々な補助事業を実行していくべきだとの結論に到達し、設立しました。会員は個々に、本町商店会・新町商店会・下町商店会・八幡町商店会・宮本商店会という五つの任意商店会に所属していますが、その中から、本組合の設立意志、事業意志に賛同したものをもって設立されました。</p>	
活動の内容	<p>私たち商業を営む者の考え方を鮮明にしてくれたのが、CI事業でした。方向、方針が決まらなくては何もできないからです。『浮き城のまち行田』という基本コンセプトを創り、それに伴うロゴマークやカラーなどを決定。我々は浮き城のまちを創りながら商業の活性化を図っていこうと、意見を統一しました。ハード事業として街路灯設置、御影石による歩道整備、コミュニティホールとしてお客様に利用していただける浮き城あきんど館の建設、さらに電線類の地中化促進などを実施。すべての事業に城下町を意識しました。そして、ソフト事業として実施している様々なイベントの開催は、お客様との有機的な関係を構築するのに役立っています。私たちがCI事業によって取り入れた「浮き城のまち」の原点ともいえるべきこと行田で起こった出来事。西暦1590年の忍城水攻めを主題にした小説「のぼうの城」が大ヒットし、2011年秋には、映画化され全国一斉封切りとなります。組合事業も新たな局面を迎えたようです。</p>	
今後の計画目標	<p>組合員は、年々活動の場が拡がり、それぞれの持ち場で、基本である「浮き城のまち行田づくり」に関わっています。それが個々の成長の証だと自負しています。</p>	
これまでの歴史	平成3年9月	設立
代表者からの一言	<p>多くのハード事業に伴った借入金の返済も、ほぼあと5年となりました。今後は次世代への引継ぎを意識した組合運営が必要とされています。若い人たちが、生き生きと育つ環境づくりが求められているようです。</p>	
団体PR	<p>「月に1万円で商店街づくりとまちづくりの一翼を担う」 そんなスタンスで総額3億円以上のハード事業を行ってまいりました。</p>	